

ブック村だより

本学コレクション紹介 (26)

ルソー 『政治経済論』①	森岡 邦泰(1)
人との出会い、本との出会い	金井 一頼(2)
ぶっくす・なう	(4)
『偽のデュー警部』	谷岡 一郎
『戦士の休息』	塩田 眞典
『そして日本経済が世界の希望になる』	佐和 良作
『今日の芸術：時代を創造するものは誰か』	下山 晃
選書ツアー体験記	経済学部 経済学科4年 稲森 智也(6)
ようこそ MyLibrary へ!	(7)
インフォメーション・開館案内	(8)



本学コレクション紹介 (26) ルソー『政治経済論』①

これは元々、ディドロとダランベール編の『百科全書』(1755年)の一項目として書かれたものである。ここでいう政治経済とは国家の統治の意味で、まだギリシャ語の元来の意味を保っていた。

スイスのジュネーブの時計職人の子として生まれたルソーは、母を生後まもなくなくし、父は10歳の時にいざこざを起こしてジュネーブを出奔したので、あちこちたらい回しにされたあげく、時計彫刻師のところへ徒弟奉公に入れられた。しかし虐待されてひねくれ、16歳の時には友人と郊外に遊びに行き、市門の閉まるまでに帰ってこれ

なかったもので、逃亡を決意。以後、放浪の生活に入る。その後新教徒を旧教徒に改宗させるプロジェクトでバラン夫人と知り合い、方々で召使いや店員や自称音楽教師をした後、バラン夫人の家に転がり込んだ。同時に何人も愛人をもつような奔放なバラン夫人からベッドに誘われたのか、ルソーはバラン夫人の愛人となる(21歳。別の家人との三角関係)。しかしルソーにとって夫人は「姉以上、母以上、女友達以上、愛人以上」のもので、晩年とても幸福な時代だったと懐かしむのである。

(経済学部 准教授 森岡 邦泰)

研究に関わる本以外にあまり親しんでいないものが、読書啓蒙記事の原稿を要請されるとは皮肉である。図書館委員（これも不思議な巡り合わせであるが）でもあるので、役目柄断ることもできず、ないネタを探して原稿を書いている。図書館委員をしていながら、図書館とはこれまで深く付き合った実感がない。正直に言うならば、図書館に入館したときの、雰囲気は苦手なのである。シーンとしていて、みんな難しい表情で本に向かっている。咳をするのも憚られる雰囲気である。私にとって居心地が極めて悪い場所なのである。それでいて、仕事柄図書館を利用しなければならない機会もそれなりに存在する。図書館を利用する機会というのは、絶版の本を借りたり、調べ物をするとき、そして必要な論文を借りるときぐらいである。読みたい本は、基本的に購入するようにしている。

本とのつきあい方は、人とのつきあい方と似ている。もともと好き嫌いが激しい方なので、この性格は人のみならず、本との出会いやつきあい方にも反映しているようである。好きになると徹底的につきあうが、お世辞が嫌いなので、自分が共感できない人とつきあうことは基本的に避けている（それでも、仕事柄、接触しなければならないことは多い）。心から思わないことや感じないことを、人の関心を得るために口に出すことが性に合わないのである。従って、自ずとつきあい方が狭く、深くなる傾向がある。それでも、人との出会いやネットワークには恵まれていると実感す

る。私が今あるのは、このような出会いやネットワークのお陰でもある。

この傾向は、本との出会いや付き合い方にも表れている。「何々賞」を受賞したからという理由で読むことは絶対にない（出会った本が賞を受賞することはある）。偏屈であるとも、付和雷同型でないともいえる。読むスピードは結構早い方であるが、多様なものを読みあさりはしない。少数ではあるが、読みたいと思って手に取った本（それが本との出会い）やその作者と徹底的に付き合う傾向がある。

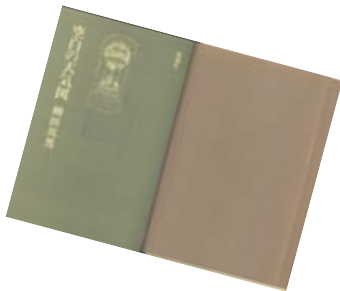
読書傾向としては、たとえ小説であっても、基本的に綿密な調査で裏付けされているものやリアリティのあるものを好む。例えば、アーサー・ヘイリーの一連の小説は好きで、よく読んだ。『自動車』『エネルギー』『マネーチェンジャー』『ストロング・メディスン』等、小説ではありながら詳細な調査やデータに基づいて、業界や企業の生々しい状況が見事に描かれており、その物語の展開の面白さに思わず引き込まれていったのを覚えている。これらの小説の背後にある調査力、洞察力、そして文章力には、ただただ驚嘆あるのみであった。

ノンフィクションやドキュメントものも好きである。柳田邦男氏や内橋克人氏の一連の作品とはよく付き合った。これらの作品は、難解な医療や企業の事業や製品の開発現場を素人にもわかりやすく描いて見せてくれている。ケーススタディをベースに研究するものにとっては、非常に教えら

れることが多いノンフィクション作品群である。

たとえば、柳田氏の『ガン回廊の朝』は、国立がんセンターを舞台にガンの診療と研究に取り組む臨床医や研究者達の苦闘と成果を、難解な医療の現場に関する知識のない素人にもわかりやすく（それでも難解なのだが）描いている。また、『最新医学の現場』においては、1980年代前半における様々な先端医療の現場における臨床医達の闘いが綿密かつ詳細な取材をもとに語られている。何と凄い迫力と説得力なのか、と圧倒されるばかりである。

柳田氏のノンフィクションの作品は、医療分野にとどまらない。『空白の天気図』では、原爆投下後の広



この本は、2Fブック村43号の棚にあります

島を昭和20年9月に襲った枕崎台風（2千人を超える死者、行方不明）のなかでも欠測なく気象観測を続けた広島地方気象台の台員達の生き様を克明に描いている。この分析力と取材力で航空問題に切り込んで書かれたのが『失速・事故の視角』である。また、このような卓越した能力は、企業の戦略と開発を焦点にして書かれた『活力の構造』（戦略編・開発編）にも遺憾なく発揮されている。

いずれの作品においても、柳田氏は徹底的な取材をもとに、鋭い洞察力で現象に切り込み、複雑な現実の姿のなかから隠れていた事実を解明し、見事なノンフィクション作品として提示してくれている。彼は、『事実の時代に』のなかで、次のように述べている。「もやに隠された山（テーマ）の存在を透視する目と、もやを吹き払って山肌を

さらけ出すテクニック（インタビュー、聞き書き、資料の発掘）、そしてそれらを作品化する構想力が要請される。問題は、目がなければ何も見えないということである。」（31頁）

このような品格のあるノンフィクション作品と付き合うと、日々テレビや新聞で繰り返されている学者や評論家たちの事実解説の浅薄さを実感する。全く、もやを吹き払って山肌を見せてくれるようには思えない。



この本は、2Fブック村43号の棚にあります

「もやもや」ばかりが残り、嫌な気分させられる。そして、それとともに自身の研究がどれほど真実に迫ったものとなっているのだろうかと思省させられる。現実がますます複雑さを増し、錯綜した現象の中で、進むべき道を迷いながらもがいている（諦めているといった方が妥当かもしれない）多くの人々にとって、このような良質のノンフィクション作品は生きる知恵を真実とともに語ってくれるのである。

人との出会いと同様に、共感できる本との出会いは人生を豊かなものにしてくれる。そして、魅力的な本との出会いは、素敵な人との出会いのように、我々の心をワクワク感で満たしてくれる。皆さんもワクワクした気持ちを探しに、素敵な本との出会いを求めてみませんか。

『偽のデュー警部』

(早川書房, 1983.10)
ピーター・ラヴゼイ 著

『偽のデュー警部』は、ミステリー・ファンの間では、むかしからよく知られている名作で、日本では今から30年以上前に一度出版されている。このタイミングで紹介したのは、新しい版が最近復刻され、手に入れやすくなったからだ。

チャップリンがアメリカで有名になり、英国に凱旋した1920年頃の設定（各章の名前もチャップリン映画だ）。大西洋を渡る豪華客船内で女性が殺され、そこに偽名で（ジョークで有名人の名を借りて）乗っていた主人公は、突然に有名警部にまつり上げられてしまう。複雑な人間関係と愛憎が交錯する中、自分もある人を殺すプランを練っていた偽のデュー警部の運命やいかに…、という話である。

早いテンポのわかりやすい文章、生き生きとした人物描写、そして頻度の高いユーモアあふれる調子は、さすがラヴゼイとうならせる氏の代表作。英国推理作家協会賞ゴールド・ダガー賞を受賞している。結末も美しくハッピーにまとまっている点もさすが。他の作品では（この作品ほどユーモラスではないが）ダイヤモンド警視シリーズが有名で、興味を持った人は『最後の刑事』からスタートしてもらいたい。こちらはシブさが売りだ。

まだ本書を読んでいないラッキーな人は、本書を手にとってみよ。イギリスのミステリーの傑作とは、どれほど高い質であるかと知ることになるう。

(学長 谷岡 一郎)



『戦士の休息』

(岩波書店, 2013.8)
落合 博満 著

阪神タイガースファンの多くは落合博満氏が中日ドラゴンズ監督の座を退かれて内心ホッとしているのではなからうか。ところで本書は阪神ファンの天敵でもあったその落合氏の野球論ならぬ映画談義なのである。あえて論ではなく談義としたのは、ここに展開されているのは高踏的な映画芸術論でも特殊な映画に対するマニアックな^{うんちく}蘊蓄話でもなく、良質の娯楽映画に対する熱い思いであるから。

それにしても小まめによく観ているな、見巧者だな、と思う。洋画ならチャップリンの『モダンタイムス』、オードリー・ヘップバーンの『ローマの休日』から『ハート・ロッカー』まで、邦画も懐かしの東映時代劇から『ディア・ドクター』『テルマエ・ロマエ』までといった具合に。氏は高校生の

時分、映画少年であったそうだ。球界に入ってから一貫して映画ファンであり続ける。

野球人落合にとって映画とは何であったのか。本書からその辺りの事情が推測でき興味深い。普通ならたんなる気晴らしだろうが、氏の場合その域を超えてしまっている。気晴らしなら観終わった時点で終了だが、多くの愛好家がそうであるように氏も終わった時点を始まりとする。その後、再度、再々度観て確認、反芻することで映画は脳内に定着し深く沈潜、堆積される。このようにして堆積された数々の映画が図らずも氏の人格の一部を構成する。しかもそのことに氏は自覚的なのである。「私の中には三船敏郎がいるのだろうか」と。そうか、優れた野球人落合博満にとっては映画館が「私の大学」であったのか！



(図書館長 塩田 真典)

『そして日本経済が世界の希望になる』

(PHP新書, 2013.10)

ポール・クルーグマン 著
山形 浩生 監修・解説 大野 和基 訳

本書は、ノーベル経済学賞受賞者のクルーグマンの語り下ろしの著作である。

2012年12月に発足した安倍晋三内閣が打ち出した経済政策をアベノミクスと呼んでいるが、アベノミクスを強力に推進させようというのがクルーグマンの主張である。アベノミクスとは、デフレと円高からの脱却、名目3%以上の経済成長の達成などを目標に、「大胆な経済政策」、「機動的な財政政策」、「民間投資を喚起する成長戦略」3つの基本方針として掲げ、これらを「3本の矢」と表現している。

なかでも重視しているのが「大胆な金融政策」で、政策を進めていくと人々の期待インフレ率が上昇し、景気浮揚の起爆剤になるという考え方。

従来の金融政策は、タブー視されるようなことはしないという考え方をかたくなに守っていた。

これに対して、クルーグマンはデフレ脱却、経済成長が大切であり、これらを達成するために、一つの政策がうまくいかなければ次の手を打つ。量的緩和をいつまでも続けるぞ、と宣言し、長期的なインフレ期待を高めることが重要だとしている。インフレを2年後に2%に持っていく、そのためには何でもするという覚悟を示せば、インフレ期待は高まって行く。これに財政支出を加えて経済成長につなげていく。日本は世界で唯一大きな変化を実現している国で、その成功により世界経済を先導することができる。

文章は平易で、最近の論点をわかりやすく説いている。

(経済学部 教授 佐和 良作)



『今日の芸術：時代を創造するものは誰か』

(光文社, 1999.3)

岡本 太郎 著

1976年、ぼくが君たちと同じような年齢だった頃、ウイスキーのテレビCMで「グラスの底に顔があっても、いいじゃないか」というのをやっていた。万博公園の「太陽の塔」の作者として知られる岡本太郎が、ぎょろぎょろぎょろとした目つきで、そのフレーズをひとこと述べるのだけど、なぜか、とても印象的だった。ウイスキーを買って、岡本さんがデザインした珍妙な顔を彫り込んだグラスがもらえたらいい。

それから三十数年、今でもぼくはグラスを手にすると、そのフレーズをしょっちゅう思い起こしてしまう。つまり、三十年以上忘れられない超インパクトある言葉に、ヒトは出会うこともある、というワケ。

はっきり言って、本書のタイトルは固い(>_<)☆しかし、内容は柔らかくわかりやすく、君の心を

ダイレクトにぎゅッと驚かすにしよう。そんな素直さ、ひたむきさ、明るさ、力強さの内蔵された文章に本書はあふれている。ずいぶん前に書かれた本ではあるけれど、現実世界はまだ岡本太郎の未来に達してはいない気がする。

さて、まずは良く遊び、そして十分よく学んで、君たちはそれぞれどんな顔を彫り込んでいくのか、楽しみやな、と思っていますが、厚化粧にハマると肌に斑点障害が出たり化けの皮がやがてははがれたり、流行や宣伝に踊らされると結局は飽きがきたりバカをみたり、ということになるので、くれぐれもご用心。

それにしても岡本さんデザインの顔グラス、今では相当なプレミアム品の筈。学生時代、もっと早くからウイスキーに親しんどけば、良かったなあ。

ウイスキー 後の祭りの 笛太鼓 響太郎

(総合経営学部 教授 下山 晃)



選書ツアー体験記

経済学部 経済学科4年
稲森 智也

私は読書が趣味なのですが、面白い本は手元に置いておきたい性質なので、普段、図書館を利用することはなく、その為に学生選書ツアーという行事があることすら知りませんでした。塩田先生のゼミからこの行事の存在を知り、今回のツアーへ参加することになりました。当日、私たちはなんばグランド花月前のジュンク堂に集合し、簡単な説明を受けた後、各々籠を手を持ち書店内を気の向くままに練り歩きました。とりあえず、普段気にしつつも手に取れずにいた小説を中心に買うことにしました。書店内はとても広く、ハードカバーのある一階と文庫本のある二階とを何度も行ったり来たりしながら、せっせと籠に詰めていきました。

古本屋でない書店にて、「好きな本を買う」という経験だけでもありがたいものだと思います。同じ経緯で参加した友人と通路で行きあう度に、何を選んだかを話しあい、互いの好きな作家の本があった場所などを教えあったりしながら、楽しく本を選ぶことが出来ました。選書後は参加者の皆さんと上階の喫茶店で和気あいあいとお喋りをしたり、参加賞として頂いた図書カードに友人と二人で喜んだり、とても有意義な時間を過ごさせていただきました。これを機会に、今後は積極的に図書館を利用して行きたいと思います。

選書の合間、稲森さんに気になる本を尋ねましたところ、『玩具修理者』(小林泰三著)を紹介して頂きました。ツアーの様子は図書館サイトでご覧いただけます。



※掲載未承認の方について画像を加工しています

上半期 学生選書コーナー貸出ランキング

	貸出回数	書誌情報	著者
1位	8	桐島、部活やめるってよ	朝井リョウ
2位	6	金欠の高校生がバフェットから「お金持ちになる方法」を学んだら	菅野隆宏
		旅猫リポート	有川浩
		思い通りに人をあやつる101の心理テクニック	神岡真司
		独学術	白取春彦
3位	5	陽気なギャングが地球を回す：長編サスペンス	伊坂幸太郎
		ザ・マインドマップ：脳の力を強化する思考技術	トニー・ブザン
		パラレルワールド・ラブストーリー	東野圭吾
		9割がバイトでも最高のスタッフに育つディズニーの教え方	福島文二郎
		具体的・効率的英語学習最強プログラム	土屋雅稔
		「あたりまえ」からはじめなさい	千田琢哉
		おおかみこどもの雨と雪	細田守
		ラブコメ今昔	有川浩
		ジョーカーゲーム	矢口武

ようこそ MyLibrary へ！

MyLibraryは、図書館ホームページ上で貸出予約・延長をしたり、好きなジャンルや作家の新着情報を入手できる、**自分専用のページ**です。

メニュー画面

図書館ホームページトップ画面より下記の画像をクリックすると、一覧が表示されます。

大阪商業大学図書館ポータル
My Library



ログインするには、2階カウンターでパスワードを申請する必要があります。IDは学籍番号または利用者番号です。


※個人ページのため、利用後は必ずログアウトしてください。

「MyLibrary」トップ画面

ヘルプ、表示するコンテンツの選択など



★ 左上部「コンテンツの選択」で、表示するメニューを選択することもできます。

★ 各メニューを編集する際は、緑色のバー右端の  ボタンをクリックしてください。

★ 英語訳が併記されています。

トップ画面からは、次のメニューを利用することができます。

1. 図書館からのお知らせ

図書館からの連絡が表示されます。

2. 図書館カレンダー

当月と翌月の開館日程が表示されます。

3. よく利用する図書館

設定されているリンク一覧から選択した図書館のリンク集を作成できます。

4. マルチ検索

キーワードを入力すると、Google検索ができます。

5. ホームページリンク集

お気に入りサイトのブックマークを追加し、リンク集を作成できます。

6. 図書館サービス

以下のメニューがあります。

- ① 利用者情報（氏名）
- ② 貸出・返却履歴
- ③ 貸出状況
貸出中の本の表示、予約本の状態確認
- ④ 貸出延長
学部生・一般利用者が対象です。
延長は予約図書を除き、1回のみ可能です。
- ⑤ 予約した本の状態確認
未返却、取置中などの状態が表示されます。

7. 新着図書情報の配信

著者やシリーズ名などの単語を登録すると、単語に関連する新着図書がMyLibrary画面に表示されます。定期的にメールで通知することも可能です。

8. 電子ジャーナル【学内アクセスのみ】

図書館で契約しているデータベースに収録された電子ジャーナルのデータから、読みたいタイトルのリストを作成できます。

詳しい登録方法は、トップ画面左上部「電子ジャーナルの登録・閲覧」をご覧ください。

図書館インフォメーション

◆特設展示「2013 年間ベストセラー」

トーハンが提供する「年間ベストセラー」が一堂に会する、人気の展示です。
毎回好評を頂いていますので、読んでみたい方はお早目にお越しください！

◆卒業生（保護者・地域住民の方）も、図書館をご利用になれます

卒業生は登録後、無料で利用できます。公的機関発行の身分証明書および写真（横3cm×縦4cm）、ご持参下さい。定められた範囲での閲覧・貸出・所蔵資料の複写が可能です。申込先は2F受付です。

※ 写真は当館で保管させていただきます。

※ 外部の方は上記と併せ、利用登録料1,000円が必要です。

◆平成25年度上半期に寄贈された本学教員著書は下記の通りです（教員名の50音順、敬称略）

※配架場所は2F「本学教員著書コーナー」です。貸出もできます。

【飯田 耕二郎】 『ホノルル日系人の歴史地理』 ナカニシヤ出版, 2013.3. 【請求記号：334.476/I26】

【石上 敏】 『東大阪市の昭和：写真アルバム』 樹林舎, 2013.8. 【請求記号：216.3/I73】

【岩井 紀子】 『データで見る東アジアの健康と社会』 ナカニシヤ出版, 2013.3. 【請求記号：498.022/I93】

【木村 雅文】 『現代を生きる若者たち』 学文社, 2013.3. 【請求記号：367.6/Ki39】

【豊山宗洋、柴田孝、伊東眞一、山根智仁、水谷淳、横見宗樹、佐和良作、原田禎夫】
『現代経済ディスカバリー』 八千代出版, 2013.5. 【請求記号：332.107/To94】

【中津 孝司】 『日本株式投資入門：ささやかな豊かさをもとめて』 創成社, 2013.5. 【請求記号：338.155/N43】

【南方 建明】 『流通政策と小売業の発展』 中央経済社, 2013.3. 【請求記号：673.7/Mi36】

【宮城 博文】 『沖縄観光とホスピタリティ産業』 晃洋書房, 2013.2. 【請求記号：689.219/Mi73】

開館案内

日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30	31				

日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30	31	

●は休館日です。

上記以外にも臨時休館日进行を設ける場合があります。

開館日程および時間は変更されることがあります。

詳細は学内掲示・モニター・ホームページ等でお知らせ致します。

大阪商業大学図書館報「ブック村だより」第43号 平成25年11月30日発行
〒577-8505 東大阪市御厨栄町4-1-10 電話 (06) 6781-5280 FAX (06) 6781-0089
e-mail : lib@oucow.daishodai.ac.jp ホームページアドレス : <http://www.lib.daishodai.ac.jp>

大阪商業大学図書館

ISSN 1346-8928